

## 音楽科学習指導案

日 時 令和5年12月14日(木)  
 6校時 14:20～15:05  
 学校名 文京区立青柳小学校  
 対 象 第4学年3組 28名  
 会 場 4階 音楽室  
 授業者 指導教諭 金田 美奈子

1 題材名 せんりつの重なりを感じ取ろう (小学生の音楽4:教育芸術社)

### 2 題材の目標

- (1) 曲想やその変化と旋律のかけ合いや重なり、音楽の縦と横との関係との関わりについて気付く。
- (2) 旋律のかけ合いや重なり、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いたりする。
- (3) 曲想と旋律のかけ合いや重なり、音楽の縦と横との関係との関わりに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組む。

### 3 指導事項との関連

B 鑑賞(1)ア イ [共通事項] (1)ア

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：  
 「旋律」「音の重なり」「音楽の縦と横との関係」)

### 4 題材の評価規準

知識・技能(知・技)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<p><b>知</b>①曲想と旋律の重なりとの関わりについて気付いている。</p> <p><b>技</b>①思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や副次的な旋律を聴いて歌う技能を身に付けている。</p> <p><b>知</b>②曲想及びその変化と旋律のかけ合いや重なり、音楽の縦と横との関係との関わりについて気付いている。</p>	<p><b>思</b>①旋律の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p><b>思</b>②旋律のかけ合いや重なり、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。</p>	<p><b>態</b>①旋律のかけ合いや重なり、音楽の縦と横との関係と曲想との関わりに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

### 5 児童の実態と題材設定の理由

児童の実態 (省略)

今回は歌唱の活動との関連を図りながら、旋律のかけ合いや重なり、音楽の縦と横との関係を知覚・感受し、友達との交流を通して、旋律のかけ合いや重なり、音楽の縦と横との関係によって生み出され

るよさや面白さを見いだすことができるような題材構成を考えた。

教材として、既習曲の「もみじ」と「パレードホッホー」「ファランドール」を設定する。各楽曲の旋律が「かけ合いながら重なる（カノン）」「交互に演奏される（かけ合い）」「同時に演奏される（パートナーソング）」ことを知覚・感受し、旋律のかけ合いや重なりが音楽の縦と横との関係の中で移り変わることによるよさやおもしろさ、美しさを味わうことができるようになると考え、本題材を設定した。

## 6 教材について

「もみじ」（高野辰之作詞／岡野貞一作曲／中野義見編曲）

ABの二部形式である。前半はカノン風の二部合唱、後半は3度の響きを保った和声的な二部合唱に続いて対位法的な合唱でまとめられている。4つのフレーズとも旋律のリズムの前半が同型である。後半も前半と同じリズムが中心となっており、統一感が保たれている。また、歌詞は日本の秋の情景が色彩感をもって表現されており、児童にとってイメージしやすいものとなっている。さらに、歌詞の内容と旋律のリズムや旋律の重なり方との調和が図られている。

本題材では既習曲として取り扱う。

「パレードホッホー」（高木あきこ作詞／平吉毅州作曲）

「旋律の重なり」について学習するために作曲された楽曲で、ABの二部形式で構成されている。パートナーソングとして合唱することができる曲で、Aのはずむような旋律とBのなめらかな旋律が対照的な特徴をもっている。また、2つの旋律を重ねた時に対位法的な旋律の重なり方になるため、単独で歌う部分と同時に歌う部分で曲想が変化する面白さを楽しむことができる。

「アルルの女」第2組曲から「ファランドール」（ビゼー作曲）

組曲「アルルの女」は、ビゼーが作曲した付随音楽「アルルの女」（全27曲）から抜粋してまとめられたもので、ビゼーが編曲した第1組曲と、彼の友人のギローが編曲した第2組曲とがある。「ファランドール」は第2組曲の終曲である。「ファランドール」は、主に2つの旋律によって音楽が構成されている。ひとつはフランス南部のプロヴァンス地方の民謡「王の行進」である。「王の行進」の旋律は、第1組曲「前奏曲」にも使われている。もうひとつはプロヴァンス地方の民族舞踊「ファランドール（馬のダンス）」の旋律である。始めに「王の行進」の旋律が管弦楽の全合奏で演奏された後、同じ旋律がカノン形式で進行する。続いて「ファランドール（馬のダンス）」の旋律が登場し、「王の行進」再び現れ、2つの旋律が交互に演奏される。最後には2つの旋律が同時に演奏され、速度と「王の行進」の調が短調から長調に転調し、興奮した雰囲気の中で終わる。

## 7 題材の指導計画と評価計画(全5時間)

時	目標	○ 学習内容 ・ 学習活動	評価規準(評価方法)		
			知・技	思	態
第1時	曲想と旋律の重なりとの関わりに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○旋律の知覚・感受               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「パレードホッホー」の旋律を歌う。</li> <li>・2つの旋律の特徴を考える。</li> </ul> </li> <li>○旋律の重なりを知覚・感受               <ul style="list-style-type: none"> <li>・範唱を聴いて、旋律の重なり方を捉える。</li> <li>・「もみじ」と「パレードホッホー」の旋律の重なり方の違いから感じたことを交流する。</li> </ul> </li> </ul>	知① (表現) (発言) (記述)		態① (行動観察) (記述)
第2時	思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や副次的な旋律を聴いて歌う技能を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○思いや意図に合った表現の工夫               <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの旋律を重ねることによる効果について考える。</li> <li>・旋律の特徴を生かして合唱する。</li> </ul> </li> <li>○思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や副次的な旋律を聴いて歌う技能の習得               <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの旋律を聴きながら、自分の思い意図を生かした歌い方で斉唱したり</li> </ul> </li> </ul>	技① (表現) (記述) (発言) (聴取)	思① (表現) (記述) (発言) (聴取)	

		合唱したりする。			
第3時	曲想及びその変化と旋律のかけ合いや重なり、音楽の縦と横との関係との関わりについて気付く。	<p>○旋律の知覚・感受</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「王の行進」の部分と「馬のダンス」の部分聴いて、旋律の特徴について、気付いたことを話し合う。</li> <li>・「ファランドール」を聴いて、聴き取ったことや感じ取ったことを交流する。</li> </ul> <p>○旋律のかけ合いや重なり、音楽の縦と横との関係と曲想との関わりへの気付き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「王の行進」「馬のダンス」に分かれて体を動かしながら曲の構成を大まかに捉える。</li> </ul>	<p>知②</p> <p>(表現) (発言) (記述)</p>		<p>態①</p> <p>(行動観察) (記述)</p>
第4時 (本時)	旋律のかけ合いや重なり、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴く。	<p>○音楽の構造の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ファランドール」を最後まで聴く。</li> </ul> <p>○楽曲全体の鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットでさらに詳しく聴き、それぞれの旋律の特徴や重なり、音楽の縦と横との関係についてまとめる。</li> <li>・友達と「ファランドール」のよさについて、考えを交流する。</li> <li>・もう一度全員で「ファランドール」を聴く。</li> <li>・学習カードに紹介文を書く。</li> </ul>		<p>態②</p> <p>(表現) (発言) (聴取)</p>	<p>態①</p> <p>(行動観察) (記述)</p>
第5時	旋律のかけ合いや重なり、音楽の縦と横との関係と曲想との関わりについて、自分の考えをまとめる。	<p>○学習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律に合う歌い方を工夫しながら「パレードホッホー」を合唱する。</li> <li>・自分や友達の考えを踏まえて「ファランドール」を聴く。</li> <li>・歌唱と鑑賞の学習を通して旋律のかけ合いや重なり、音楽の縦と横との関係と曲想との関わりについて、学習したことをまとめる。</li> </ul>			<p>態①</p> <p>(行動観察) (記述)</p>

## 8 本時(全5時間中の第4時)

### (1) 本時の目標

旋律のかけ合いや重なり、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、曲のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴く。

### (2) 本時の展開

時間	○学習内容	・学習活動	☆ 指導上の留意点	配慮事項	評価規準(評価方法)
導入 2分	○本時のめあての確認				
せんりつのかけ合いや重なり、音楽のたてと横との関係を手がかりに曲全体をきき、よさを伝え合おう。					
展開 40分	○音楽の構造の確認 ・「ファランドール」を最後まで聴く。  ○楽曲全体の鑑賞 ・タブレットでさらに詳しく聴き、それぞれの旋律の特徴や重なり、音楽の縦と横との関係についてまとめる。  ・友達と「ファランドール」のよさについて、考えを交流する。 ・もう一度全員で「ファランドール」を聴く。 ・学習カードに紹介文を書く。	◇学習カードを見ながら、体を動かしたり小さい声で口ずさんだりなど、自分の聴き方で聴くよう指示をする。  ◇児童がどのように聴いているのかを教師が確認しながら観察することができるよう、教室と廊下に分かれて音を出して聴く場を設定する。  ◇児童が自分の考えをまとめやすい方法を選ぶことができるように、学習カードとプレゼンテーションデータを準備する。  ◇必要に応じてタブレットで音楽を確認しながら考えを伝え合う時間を設定する。  ◇旋律のかけ合いや重なり、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさについて触れるよう指示をする。  ◇次時にも紹介文の続きを書く時間を確保する。			態①旋律のかけ合いや重なり、音楽の縦と横との関係と曲想との関わりに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。  思②旋律のかけ合いや重なり、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。
まとめ 3分	・振り返りをする。				
		◇旋律のかけ合いや重なり、音楽の縦と横との関係による曲想の変化のよさや面白さについて新たに気付いたことを記述するよう指示をする。			